
静かな夜の丘 ~ Quiet NightlyHill ~

天瀬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

静かな夜の丘 Quiet Nightly Hill

【Nコード】

N1007P

【作者名】

天瀬

【あらすじ】

静かな夜の丘、そこは私だけの世界だった。

「静かな夜の丘」…私自身が落ち込んだ時によく行く小さい丘を舞台にした少女と冒険好きな少年の出会いのお話です♪

話は中途半端なシリアスだったりします

プロローグ〜遠い想い出〜

プロローグ〜遠い想い出〜

今、一人丘にいる。

静かな、静かな……夜の丘に。

私は1人、丘の頂上にある小さな公園にある木製のベンチに座っていた。

公園には遊具は一切なく、あるのはただ1つだけのベンチだけで

その他の遊具はみんな冬のために撤去されてしまったようで、溶けかけた雪の中から遊具の土台みただけが見えていた。

そんな小さな公園にもうすぐ、春になるのかなっと感じる暖かい風が吹いた。

……もう、2年も前なんだ。

私は一人、一通の手紙を書いていた。

手元を照らす光は公園の電灯と月明かりだけで字は書きづらく何

ども手が止まってしまい、

ようやく書き終えた手紙は何度も消しゴムで消したりしたためか、シワだらけの手紙になっていたけど、これはこれで味があったいいと思う。

……出来た手紙の内容は短文だったかもしれない。

だけで……私はこれで十分思いは届いてくれると思っている。

彼ならわかってくれる……そう信じていた。

そして、書き終えた手紙の裏に小さくこう書いた。

『静かな

夜の丘の

少女より』

4年後……きっと彼に届くように、

私は手紙を大事に封筒に入れ、ベンチから立ち上がるり空を見上げると、

ゆっくりと目を閉じた。

ブログ〜遠い想い出〜（後書き）

携帯で投稿してる作品なので文自体短くストーリーも短めに終わらせうなお話です。

更新はイラスト描く合間などに書いてる程度なのでかなり遅いかもしれません。

一律く静かな夜の出来事く

3月の夜だった……。

私はゆっくりと長く緩やかな丘を下りていた。

足取りは重く、下りる途中、何度も足が止まり、空を見上げた。
道の周りにある木はまるで笑っているかのように揺れている。

「ここから下りてもなにもないのに」

この丘から下りたらなにもない、別世界のように感じる。

時間が止まることは決してなく、ただ時間に翻弄される世界。

そして、人間がたくさんいる世界……。

私は……、人間が大嫌い、だった。

特に理由なんてない。

ただ……嫌いなだけ、嫌なだけ。

あのとき……。

私は足を止め大きなため息をし、また空を見上げてた。

しばらく綺麗な夜空を見上げ一息つくと、夜空を見上げるのをやめて歩きだす。

「出来れば帰りたくないけど……空腹には勝てないわ」

そう、私は今日何も食べていなかった。

そのためお腹とおへそがくっついてしまいそうなぐらいにお腹が空いていた。

私は空腹に耐えられるほど忍耐力がある人じゃないし、

どんなに人が嫌いだからって空腹には耐え切れない！

ゆっくり歩くペースを少し早め長く緩やかな丘を下り始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1007p/>

静かな夜の丘～Quiet NightlyHill～

2010年11月27日18時08分発行